

テレビの「薬」情報が  
患者・医療現場に与える影響  
実態調査

平成22年8月20日

東京大学大学院薬学系研究科教授 澤田康文

株式会社QLife(キューライフ)

## 調査の背景

患者や生活者が、病気や治療法などについて学ぶのは、医療従事者からとは限らない。むしろ、テレビや新聞などマスメディアを介して情報に触れる方が多いのではなかろうか。

それらの情報のなかには、「医薬品の副作用」に関するものもある。副作用のことを突然知らされた患者は、「この薬を飲み続けては危険」と自己判断で薬を止めてしまうことがあり、医療者が把握しないまま「離脱症状」(突然の服薬中止によって起こる副作用、軽微なものから重篤なものまで)が発生している可能性もある。

2009年6月にNHKが放映した番組『クローズアップ現代:抗うつ薬の死角～転換迫られるうつ病治療～』は、抗うつ薬の服用が他人を攻撃する危険性をはらむという内容で、大きく話題になったため、この番組を調査題材として、患者や医療現場への影響実態や、それに対する医療者の見方を確認した。

## 結論の概要

### ●生活者が医療情報を得るメディアとしては、テレビが1位

- ・リーチ(多くの人が接している)が最多のメディアは、テレビである。
- ・最も情報量/頻度が多いのもテレビであり、最も「行動に影響ある」のもテレビである。

### ●NHKと民放では、視聴のされ方に違いがある

- ・NHKを短時間視聴し、民放を長時間視聴する人が多い。
- ・医療情報を得る場合には、NHKの方が民放よりも信頼性が高い。

### ●テレビで「自分/家族の薬」が出ていたら、患者は、医療者に質問する

- ・9割が、その内容を気にする。
- ・出ていた話が「副作用」に関するものだったり、疑問があったりした場合には、多くの人が医師や薬剤師に質問をする。ただし13%は、独自判断で「まず、服用を中止」してしまう。

### ●NHKの番組『うつ薬の死角～転換迫られるうつ病治療』は、視聴者に質問をさせた

- ・当該番組を見知っていたのは24%。
- ・うち、81%は医療者に質問した(または、そう想像する)。ただし独自判断で服用中止する人も11%に上る。

### ●医師や薬剤師による「薬」の説明は不十分

- ・医師説明には33%、薬剤師説明には53%の人しか、十分と感じていない。
- ・疑問がある場合にはほとんどの人が医療者に質問するが、自分で調べられるから、と質問しない人も5%いる。女性の場合には、“遠慮”が原因で医療者に質問できない人も多い。

## 【調査実施概要】

### ▼実施概要

- (1) 調査対象: 全国の生活者
- (2) 有効回収数: 2,198人
- (3) 調査方法: インターネット調査
- (4) 調査時期: 2009/10/16～2009/11/04

### ▼本調査の位置づけ

本調査は、他の2つの調査と一体となって、一つの研究テーマを構成した。すなわち、医師向け調査（インターネット調査、2009年6月19日～7月13日、有効回答181件）、ならびに薬剤師向け調査（インターネット調査、2009年6月19日～7月13日、有効回答346件）である。

その研究テーマとは、『テレビ番組は医師、薬剤師と一般生活者の医薬品使用意識にどのような影響を及ぼすか？』であり、結果の概要が、第13回日本医薬品情報学会総会・学術大会（平成22年7月23日）で東京大学大学院薬学系研究科教授・澤田康文によって発表された。

### ▼有効回答者の属性

	男	女	計
10代	0.4%	0.3%	0.7%
20代	4.2%	7.1%	11.3%
30代	8.7%	13.7%	22.4%
40代	13.1%	14.7%	27.8%
50代	12.0%	9.3%	21.2%
60代	9.2%	3.0%	12.2%
70代	3.3%	0.7%	4.0%
80代	0.3%	0.0%	0.3%
計	51.1%	48.9%	100.0%

## 【調査結果の詳細】

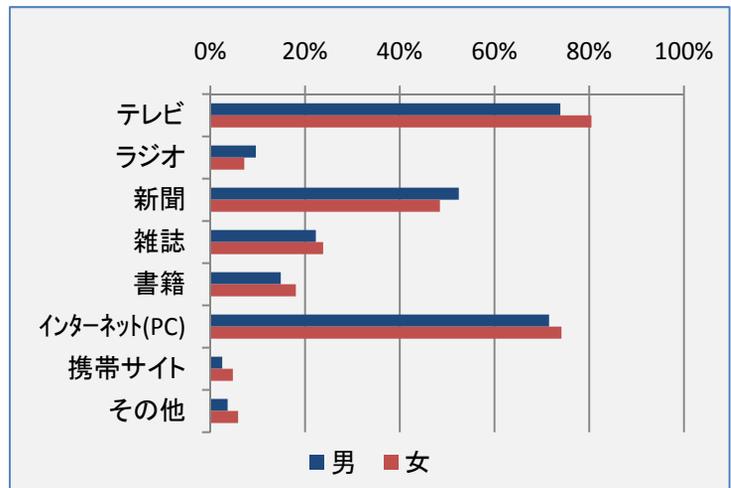
1. 日常的に(月に1回程度以上)、健康・病気・薬などの「医療に関する情報」を、どのメディアから得ていますか。(複数回答) ※国の医療政策、医師ドキュメンタリー・ドラマなどは除きます。

また、「最も多く得ている」「最も信頼できる」「最も行動に影響がある」メディアを教えてください。(単数回答)

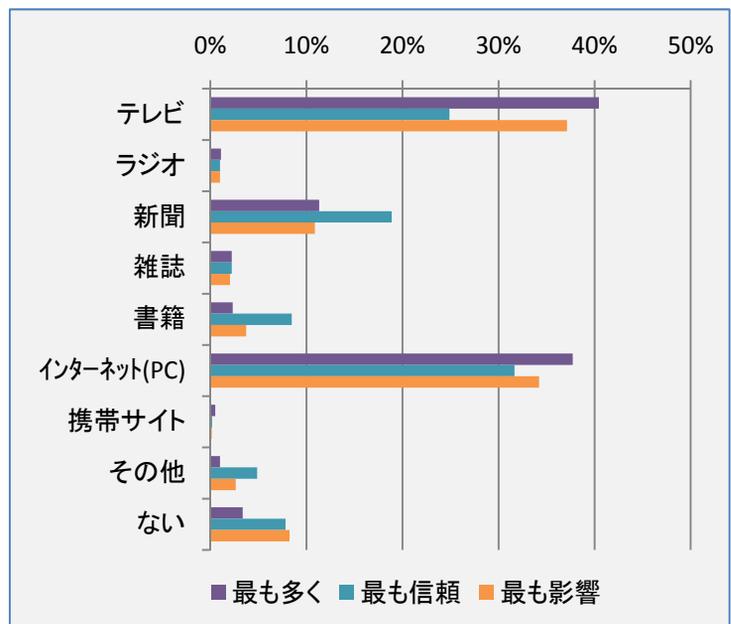
医療情報に関して最も多くの人にリーチしているメディアを確認したところ、1位はテレビで、続いてインターネット(PC)、新聞であった。性差はあまりないが、男性は新聞がやや多く、女性はテレビがやや多い。

「信頼面」ではテレビ、ラジオ、雑誌が相対的に落ちる。ところが実際の「行動面に与える影響」は、「信頼性」よりも「情報量/頻度」との相関が強く、ここでもテレビが第1位である。インターネットの影響力も大きい。

	男	女	全体
テレビ	74%	80%	77%
ラジオ	10%	7%	8%
新聞	52%	48%	51%
雑誌	22%	24%	23%
書籍	15%	18%	16%
インターネット(PC)	72%	74%	73%
携帯サイト	2%	5%	4%
その他	4%	6%	5%
合計	256%	265%	261%



	最も多く得ている	最も信頼できる	最も行動に影響ある
テレビ	40%	25%	37%
ラジオ	1%	1%	1%
新聞	11%	19%	11%
雑誌	2%	2%	2%
書籍	2%	8%	4%
インターネット(PC)	38%	32%	34%
携帯サイト	1%	0%	0%
その他	1%	5%	3%
ない※	3%	8%	8%
合計	100%	100%	100%

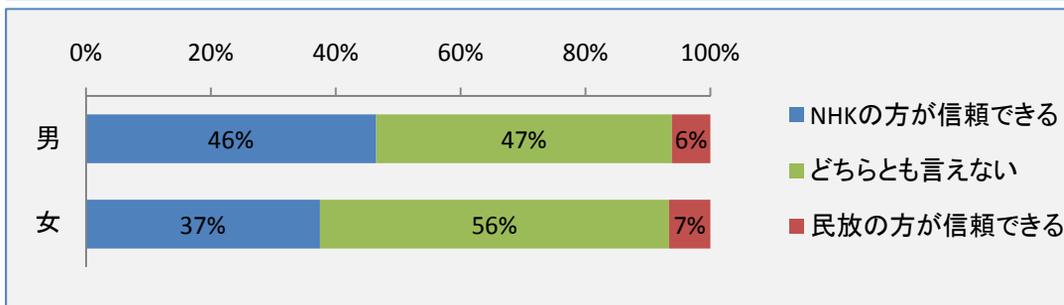
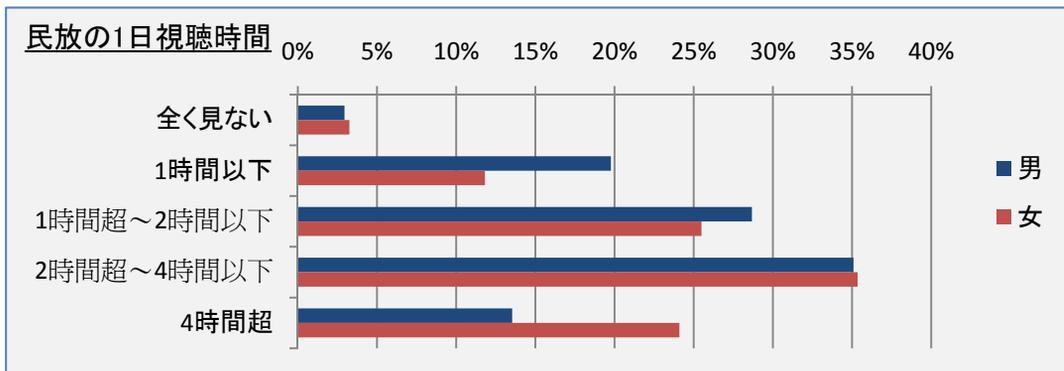
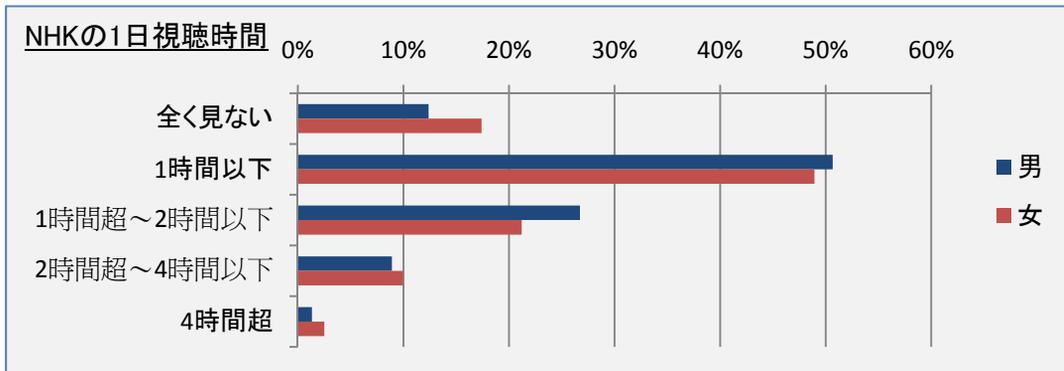


※実際の選択肢は、左から「メディアから得ていない」「メディアは全て信頼できない」「メディアからは影響を受けない」であった。

## 2. テレビの「NHK」「民放」は平均して1日何時間くらい見ますか。また「医療に関する」情報源としては、どちらが信頼できますか。

NHKは短時間の、民放は長時間の視聴をする人が多い。特に女性はその傾向が強く、「民放・4時間超」群に占めるのは女性が圧倒的。一方、「医療関連の情報源としての信頼性」では、NHKに軍配を上げる人が多く、全体では42%に上った。

NHK(総合、教育、BS)	男	女	全体	民放(地上波、BS)	男	女	全体
全く見ない	12%	17%	15%	全く見ない	3%	3%	3%
1時間以下	51%	49%	50%	1時間以下	20%	12%	16%
1時間超～2時間以下	27%	21%	24%	1時間超～2時間以下	29%	25%	27%
2時間超～4時間以下	9%	10%	9%	2時間超～4時間以下	35%	35%	35%
4時間超	1%	3%	2%	4時間超	14%	24%	19%
合計	100%	100%	100%	合計	100%	100%	100%

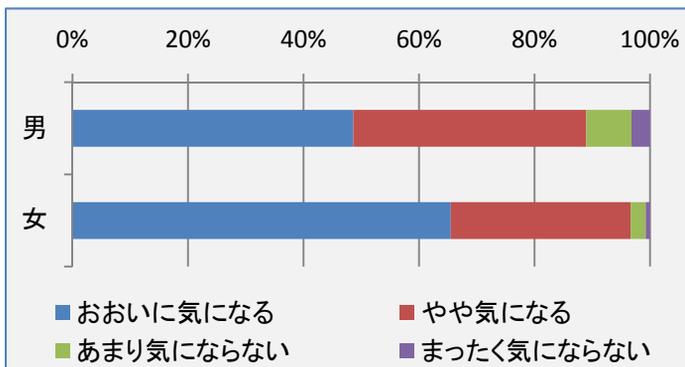


**3. テレビ番組に、「自分や家族が現在服用している薬」の話が出ていたら、どうしますか。  
※「薬」にまったく縁がない方は、「もしあなたが薬を服用していたら」と想定してお答えください。**

テレビで自分や家族の薬が話題になっていたら、「気になる」人が多くを占めた。特に女性では65%が「おおいに」、31%が「やや」と、合計93%が気になる。また、その話が「副作用」の場合には、「まず医療者に相談する」人が大半を占めるものの、「まず服用を中止する/減らす」という行動を採る回答者が、男性18%、女性16%する。内容に疑問あった場合には、男女ともに90%超が医療者に質問し、しかも61%は医師と薬剤師の両方に確認することがわかった。

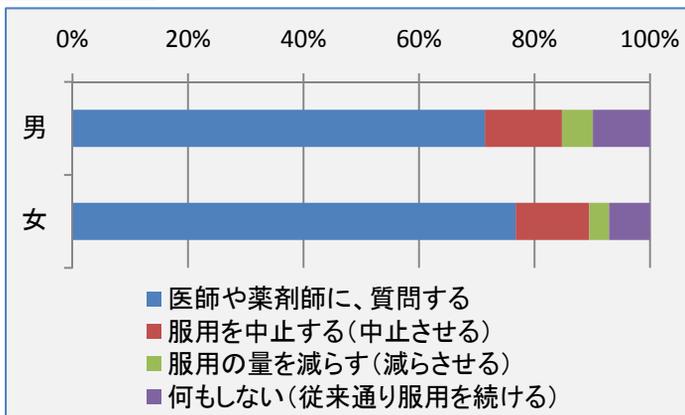
**気になりますか。**

	男	女	全体
おおいに気になる	49%	65%	57%
やや気になる	40%	31%	36%
あまり気にならない	8%	3%	5%
まったく気にならない	3%	1%	2%
合計	100%	100%	100%



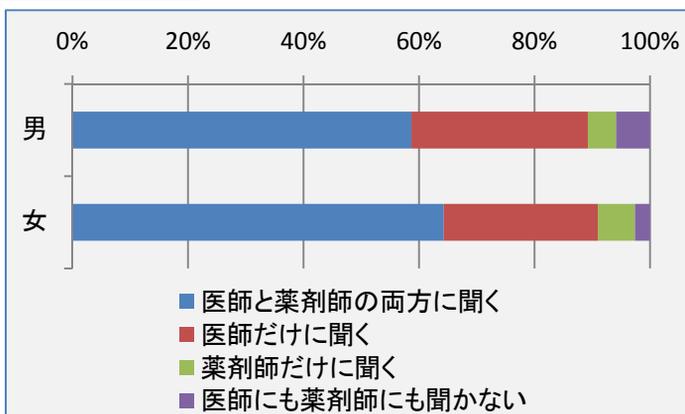
**「副作用」の話が出ていた場合、まず最初にどうしますか。**

	男	女	全体
医師や薬剤師に、質問する	71%	77%	74%
服用を中止する(中止させる)	13%	13%	13%
服用の量を減らす(減らさせる)	5%	3%	4%
何もしない(従来通り服用を続ける)	10%	7%	9%
合計	100%	100%	100%



**内容に「疑問」を持った場合、医師・薬剤師に質問をしますか。**

	男	女	全体
医師と薬剤師の両方に聞く	59%	64%	61%
医師だけに聞く	31%	27%	29%
薬剤師だけに聞く	5%	6%	6%
医師にも薬剤師にも聞かない	6%	3%	4%
合計	100%	100%	100%



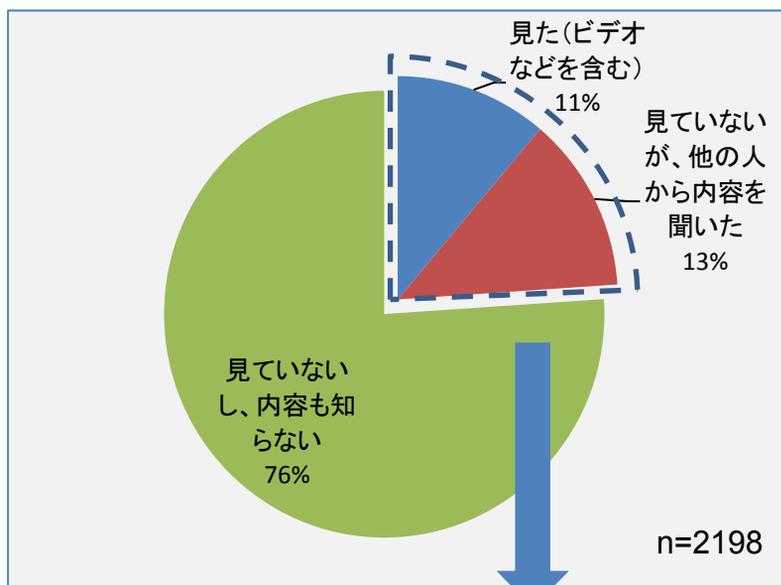
**4. 本年6月にNHKテレビ番組「クローズアップ現代」において、『抗うつ薬の死角～転換迫られるうつ病治療～』が放映され、その内容は以下のものでした。この番組を見ましたか。**

「厚生労働省は抗うつ薬の4種類について、他人を攻撃する危険性があると注意喚起を呼びかけた。服用後に他人に暴力を振るうなど、影響が疑われた268件のケースのうち、4例については因果関係を否定できないと判断したのだ。すでにアメリカでは服用者が銃乱射事件を起こしたことなどから、5年前に同様の措置が取られている。」

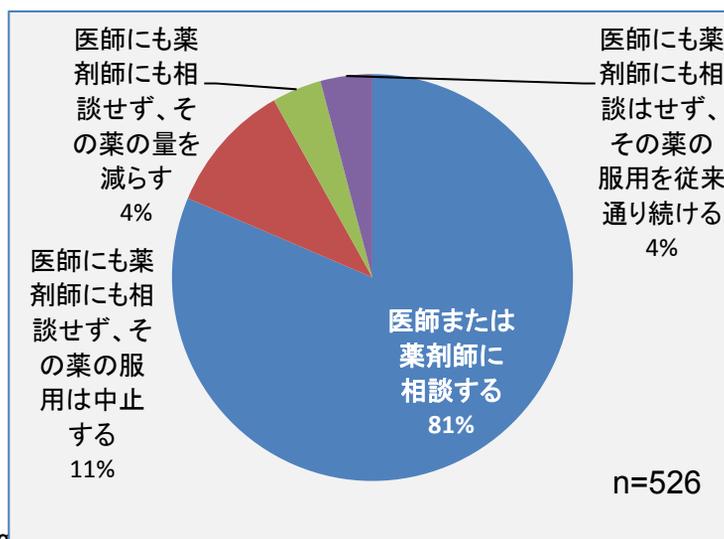
当該番組を見た人は、11%であった。実際の視聴率が13.4%(関東地区、ビデオリサーチ調べ)と高く、また話題性もあったことから、「他の人から内容を聞いた」という人も13%に上った。

これらの、「アンケート以前に番組を見聞きしていた人」に対して、自身が当該薬剤の服用者であったらどのような行動を採ったかを回答してもらったところ、「医療者に相談せず中止」が11%、「減らした」が4%と、計15%が勝手に服薬行動を変えていたことがわかった。

**その番組を見ましたか。**



**その「うつ病の薬」をあなた自身が服用していたら(あるいは、実際に服用している場合)、その番組を見てどうしたと想像しますか(あるいは、どうしましたか)。**



## 5. 医師や薬剤師の、「薬」に関する説明は十分だと思いますか。

※ここからは、メディア/テレビ番組とは関係なく、一般論として、聞いた。

医師の「薬」に関する説明が十分と考えているのは、少数派だった。男性が3+34=37%、女性はさらに比率が低く、2+27=29%しか十分と考えない。

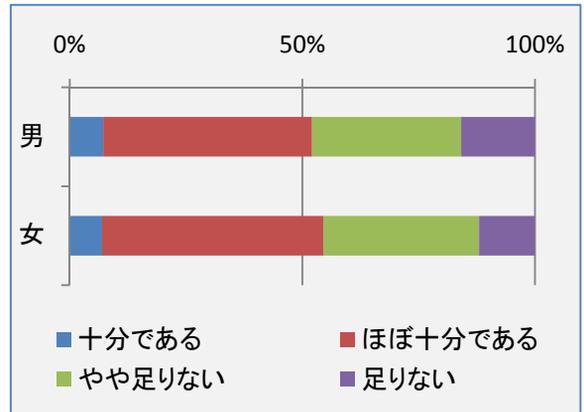
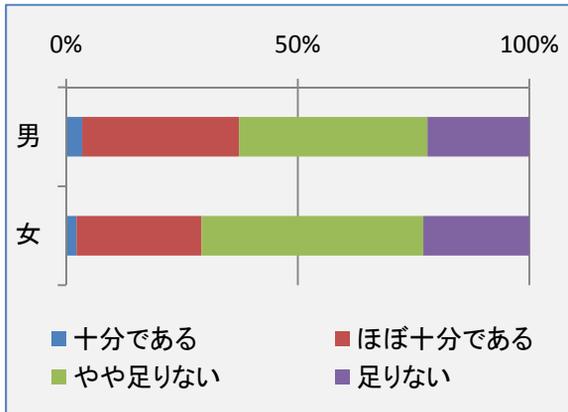
一方、薬剤師に関しては、十分と考える人が男女ともに高い。それでも全体で7+46=53%と約半数しか十分と考えていないことがわかった。

### 医師の説明

	男	女	全体
十分である	3%	2%	3%
ほぼ十分である	34%	27%	30%
やや足りない	41%	48%	44%
足りない	22%	23%	22%
合計	100%	100%	100%

### 薬剤師の説明

	男	女	全体
十分である	7%	7%	7%
ほぼ十分である	45%	48%	46%
やや足りない	32%	33%	33%
足りない	16%	12%	14%
合計	100%	100%	100%



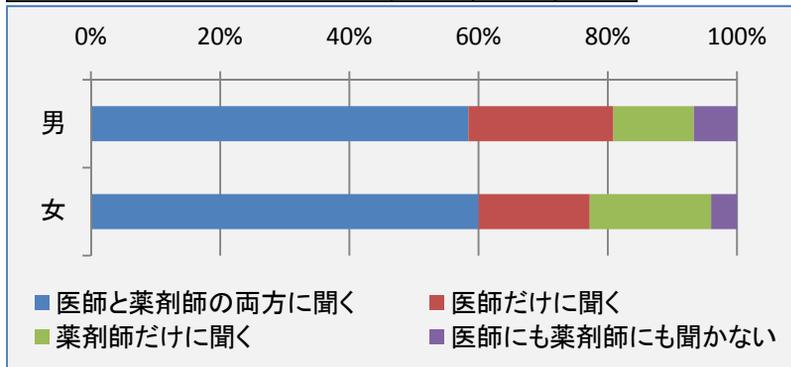
## 6. 「処方された薬」に関する疑問がある場合、医師や薬剤師に聞きますか。

前問で、医師や薬剤師の「薬」に関する説明が不十分、と考える人が多いことがわかったが、では一方の患者の側は、疑問があった時に医療者に確認をするのだろうか。

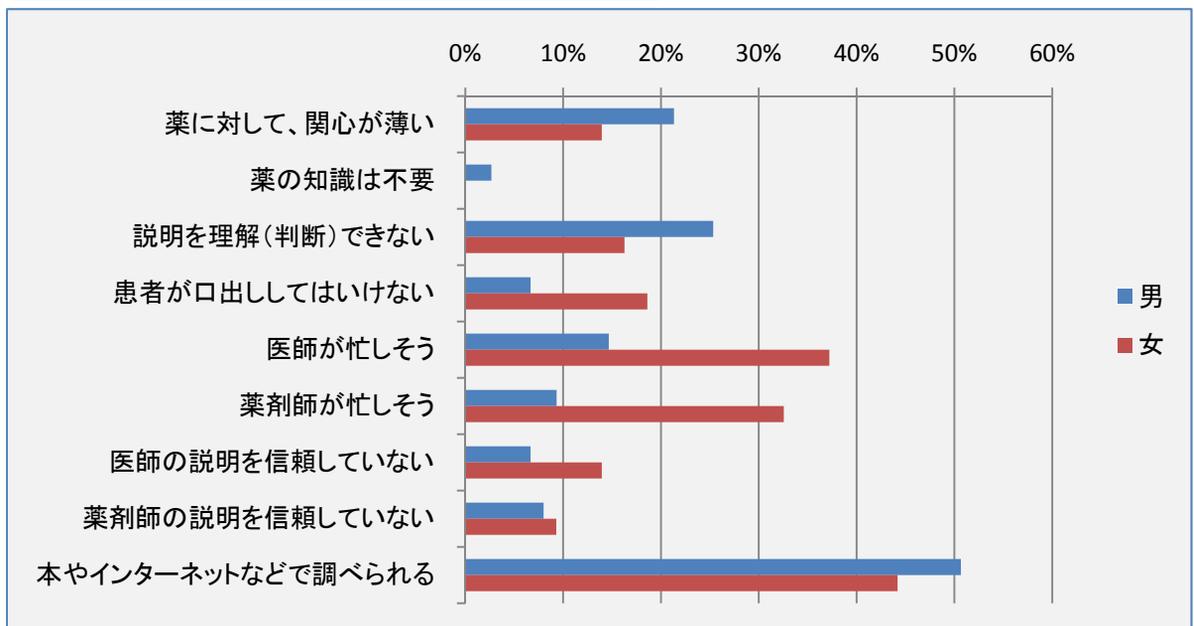
医療者に質問をしない人は5%に過ぎず、ほとんどの人が確認をするようだ。男性は医師に、女性は薬剤師に聞く傾向がやや強いが、医師と薬剤師の両方に聞く人も6割に上る。

5%の「医師にも薬剤師にも聞かない」人に、なぜ質問をしないのかを確認したところ、自分で調べられるからと考える人が最多であったが、女性では「忙しそう」「患者は口出すべきでない」などと“遠慮”が原因になっている人が多いことが分かった。

	男	女	全体
医師と薬剤師の両方に聞く	58%	60%	59%
医師だけに聞く	22%	17%	20%
薬剤師だけに聞く	12%	19%	16%
医師にも薬剤師にも聞かない	7%	4%	5%
合計	100%	100%	100%



### なぜ、医師にも薬剤師にも聞かないのですか。(複数回答)



---

本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当 山内善行

TEL : 03-5433-3161 / E-mail : [info@qlife.co.jp](mailto:info@qlife.co.jp)

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名 : 株式会社QLife(キューライフ)

所在地 : 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂2-7-2 リングリングビルA棟6F

代表者 : 代表取締役 山内善行

設立日 : 2006年(平成18年)11月17日

事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念 : 生活者と医療機関の距離を縮める

サイト理念 : 感動をシェアしよう!

URL : <http://www.qlife.co.jp/>

---